

# 都市化の度合いによる水路景観に対する住民意識の相違

—岩手県水沢都市圏の調査から—

## Difference in residents' attitude about landscape of irrigation canal by their degree of urbanization

—In case of MIZUSAWA urban region, IWATE pref.—

○並岡広樹\* 藤崎浩幸\*\* 藤井克己\*\*

NAMIOKA, Hiroki FUJISAKI, Hiroyuki FUJII, Katsumi

### 1. はじめに

1999年、食料・農業・農村基本法の制定、2002年には、土地改良法改正により「環境と景観への配慮」する旨が追加された。農村景観は、感覚的・抽象的間接的な事柄なので維持・保全が大変難しい。また、景観の機能・効能の客観的尺度がない。そのため、農村景観の諸機能・諸効能を明らかにする景観評価手法を開発する必要がある。楠本らの研究<sup>1)</sup>では、都市化の進んでいる地区は伝統的な農村景観を高く評価し、純農山村は人工的な施設景観を支持すると述べられているが、全国に広くばらつく5地区でのデータから導いている。そこで本研究では、隣接した都市と農村の住民の農村景観の捉え方の違いについて水路景観を取り上げ、調査することを目的とする。

### 2. 調査方法

景観評価には、多数の尺度で評価値を測定する Semantic Differential 法を用いた。まず多数の尺度をそのまま用いるプロフィール曲線を作成し、景観の細かい特徴を把握した後、それを因子分析し対象を評価する代表的な評価尺度を抽出し、景観の全体的な傾向を整理した。最後に、その代表的な評価尺度に回答者のどの属性がどのくらい影響しているかを数量化I類で解析した。

水路景観には、水路構造を考慮して8枚の農業用水路（幹線・支線水路）の写真（素掘り水路・二面張コンクリート水路・三面張コンクリート水路・環境配慮水路・修景整備された水路）を選び、評価は18の形容詞対（7段階）で行った。また回答者属性として世代・性別・職業・居住地域・農業体験の有無・水路とのふれあい度を問うた。

調査対象は岩手県内で農村景観の意識の高い市町村として、国土庁主催の農村アメニティコンクールで最優秀賞を平成3年に受賞した胆沢町と、それに隣接する都市である水沢市を調査地域に選んだ。そして水沢市役所からの距離（0km:5km:10km:15km）によって胆沢平野を東西にはしる国道397号線沿いの4地区（おおいでまちにし 大手町西：いしだみなか 石田南：とどろ 都鳥：でだな 出店）

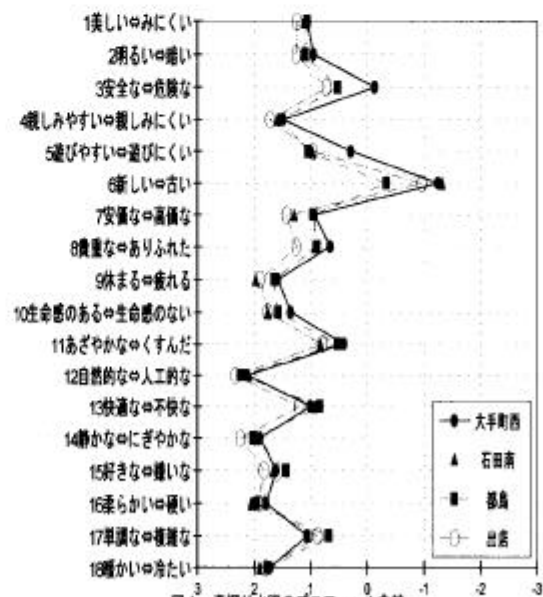


図1 素掘り水路のプロフィール曲線  
Fig.1 A curve of profile about unlined canal

を選び、その地区の住民（成人）326世帯とした。調査は平成15年1月に行い、配付は

\*岩手大学大学院農学研究科 Graduate school of Agriculture, Iwate Univ.

\*\*岩手大学農学部 Faculty of Agriculture, Iwate Univ.

戸別訪問し、回収は郵送で行った。回収率は 53%で、有効回答は 240 件である。

### 3. 水路景観評価と代表的な評価尺度

プロフィール曲線の一例として素掘り水路を挙げ図 1 に示す。4 地区すべて「親しみやすい・休まる・生命感のある・自然的な・静かな・好きな・柔らかい・暖かい」という評価が高く、類似したプロフィール曲線になった。他の水路も 4 地区とも似た傾向を示した。

因子分析では固有値 1 以上の因子は第 2 因子まででその累積寄与率が 91.99%となった。表 1 は因子負荷量を示したもので、第 1 因子は「自然的な⇔人工的な」、「柔らかい⇔硬い」、「暖かい⇔冷たい」、「生命感のある⇔生命感のない」、「安価な⇔高価な」、「遊びやすい⇔遊びにくい」、「静かな⇔にぎやかな」、「休まる⇔疲れる」で 0.8 以上を示すことから、「やすらぎ」を表す因子であると考えられる。第 2 因子は「美しい⇔みにくい」、「明るい⇔暗い」、「あざやかな⇔くすんだ」、「快適な⇔不快な」で 0.8 以上を示すことから、「清涼性」を表す因子であると考えられる。

次いで地区別・水路別の因子得点プロット図を作成した(図 2)。素掘り水路では「やすらぎ」「清涼性」とも高かったのに対し、コンクリート材料を用いた水路は「清涼性」は高いが、「やすらぎ」が低い。また地区ごとではなく、水路ごとに因子得点がまとまっていることがわかる。

### 4. 水路景観評価と回答者属性

因子得点 No.1「やすらぎ」、2「清涼性」を目的変数、回答者属性を説明変数として、数量化理論 I 類を行った。その結果、水路景観評価に対し、居住地域より世代や職業が影響を及ぼしていることがわかった(図 3)。また、水路構造による差異はあまりないこともわかる。

### 5. おわりに

景観評価が居住地域の違いにより異なるという仮定で本研究を行ってみた結果、水沢都市圏では居住地域より回答者の職業や世代などのほうが影響を与えているということがわかった。また被験者が水路景観を「やすらぎ」、「清涼性」という 2 つの尺度を用いて評価していたということがわかった。調査に際し、水沢市役所、胆沢町役場及び地元自治会の協力を得た。付記して謝意を表す。

1) 楠本佑司、青柳徳俊(1985): 農村居住者からみた農村景観形成課題と修景手法に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第 354 号、70-77

表 1. 因子負荷量  
Table 1. Factor loading

変数名	因子 1	因子 2
1 美しい⇔みにくい	0.029	0.994
2 明るい⇔暗い	0.040	0.984
3 安全な⇔危険な	0.642	0.659
4 親しみやすい⇔親みにくい	0.758	0.644
5 遊びやすい⇔遊びにくい	0.869	0.402
6 新しい⇔古い	-0.764	0.591
7 安価な⇔高価な	0.904	-0.284
8 貴重な⇔ありふれた	0.705	0.648
9 休まる⇔疲れる	0.826	0.550
10 生命感のある⇔生命感のない	0.909	0.361
11 あざやかな⇔くすんだ	0.282	0.925
12 自然的な⇔人工的な	0.993	0.030
13 快適な⇔不快な	0.436	0.882
14 静かな⇔にぎやかな	0.844	0.389
15 好きな⇔嫌いな	0.723	0.677
16 柔らかい⇔硬い	0.979	0.179
17 単調な⇔複雑な	0.062	0.669
18 暖かい⇔冷たい	0.956	0.258

